2025年度卒業式が執り行われました

2026年３月14日、新潟市北区文化会館にて令和７年度卒業式・大学院修了式が執り行われました。

式典では、学長より卒業生のこれまでの努力を称え、次のステージでの活躍に期待を込めた祝辞が贈られました。

卒業生代表による謝辞では、学生生活を支えてくれた家族、仲間、そして教職員への感謝が述べられました。

これから社会で活躍する卒業生の皆さんの歩みを、大学一同これからも応援していきます。









4　２０２５年度下期　キャリア支援について

卒業生の皆様ならびに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

新しい門出を心よりお祝い申し上げます。キャリアセンター一同、皆様のご活躍を祈念しております。第５期生の皆さんは、本学の開学目的を理解され、「食」「農」「ビジネス」と多岐に渡る食料産業界に７割以上の方が就職し、また国家公務員をはじめ10名が公務員として春から第一線で活躍されること、頼もしく思います。また、食料産業以外や進学などを選択された皆さんも、それぞれの想いを伺い、心より応援しております。

３年生（新４年生）は、３月１日より企業の求人活動が解禁となり、現在、就職活動が開始されています。この３月を迎えるまでの１年間、就職関連講座を延べ19講座開催。また、11月にはNAFU JOB博と題し、県内外企業20社をお招きし、就職講演会、業界職種研究会を開催いたしました。

１年間の準備を経て、就職活動に臨んでおりますので、ご家庭におかれましてもご支援いただきたくお願いいたします。ご家族からの応援が学生の力になるかと思います。

２年生（新３年生）は、卒業後の進路を検討していただく時期となっております。

５月には進路希望調査を実施し、学生一人一人の希望を確認する予定です。それぞれの進路に沿った支援を進めてまいります。まだ進路について迷っている学生も見受けられますので、ご家庭におかれましても今後の進路について話題にあげてご助言いただき、キャリアセンターの利用を勧めていただけると幸いです。

１年生（新２年生）は、所属コースも決まり、より専門性の高い学びの場へ進むこととなります。さらにその先に、希望する業界への就職が待っておりますので、将来を見据えて勉学に励んでいただきたいと思います。まだ希望する業種・職種が確定されていない方については、１年後には進むべき道を見つけられますよう、支援をさせていただきますので、お気軽にキャリアセンターをご活用いただければ幸いです。

在学中はもちろんのこと、卒業された後でもお困りのことがあれば、キャリアセンターをご活用ください。

5　メールアドレスのご登録のお願い

会員の皆様とのより効率的かつスピーディな情報共有を目的に、会員の方のメールアドレスを収集させていただいております。

右記のURLまたは二次元コードよりご登録いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

【登録フォームURL】
https://forms.office.com/r/dmikaZXZG5

登録フォーム
二次元コード

新潟食料農業大学
Niigata Agro-Food University
▶新潟キャンパス 〒950-3197 新潟県新潟市北区島見町 940
▶胎内キャンパス 〒959-2702 新潟県胎内市平根台 2416

橙和
—TOWA—

Vol.13 2025年度下期号
新潟食料農業大学 大学だより



2025年度卒業式・大学院修了式

1 後援会会長あいさつ
2 学長あいさつ
3 新潟食料農業大学ニュース
〈2025年度下期〉
・NAFUフットサル部
監督決定
・橙和祭開催
・国際理解セミナー
・留学生＆日本人学生交流会
・芋煮会
・卒業式・大学院修了式
4 2025年度下期　キャリア支援について
5 メールアドレスご登録のお願い



橙和…一期生による造語。本学のイメージカラーであるオレンジと、その実が春先から夏場にかけては青く、秋には見事に熟す「橙」を自分たちの成長になぞらえ、そしてその「和」が永遠（とわ）に続くように、との願いを込めています。

1　後援会会長あいさつ



新潟食料農業大学 後援会会長
岩川 佳明

新潟食料農業大学後援会会長を務めさせていただいております岩川佳明でございます。会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

新潟食料農業大学後援会は、「本学の教育・研究事業を援助し、本学の発展に寄与すること」を目的として活動しております。学生一人ひとりが充実した学修と課外活動に取り組めるよう、引き続き支援を重ねてまいります。

本年度も、本学の特色である実践的な学びと地域連携の取組が大きく実を結びました。10月には第８回大学祭『橙和祭（とうわさい）』を開催いたしました。軽音楽サークルによるライブを皮切りに、卒業生も駆けつけ計７組のバンドが熱演し、在学生・卒業生が一体となって大いに盛り上がりました。ミニ講義では、アグリ・フード・ビジネスの各コース教員がそれぞれ専門性を活かした講義を開講し、「イネの品種紹介」「フィリピン共和国ネグロス島のバナナ生産者とあゆむ資源循環システムの適正技術化」「令和の米騒動は何だったのか」といった今日的なテーマに、地域の皆様も熱心に耳を傾けておられました。屋外では各クラブ・サークルや地域の方々による出店が並び、学生たちの工夫を凝らした商品が多くの来場者に喜ばれ、終日にぎわいを見せました。

また11月には、本学の校歌「緑の地から」のお披露目会を開催いたしました。今後、入学式や卒業式をはじめとする様々な式典や行事において歌い継がれ、本学の新たな象徴として学生の心に刻まれていくことでしょう。

さらに、2026年度からは指定強化部にフットサル部が新たに加わります。Fリーグ「ヴィンセドール白山」の杉木陽介総監督のもと、監督に山田秀哉氏を迎え、2026年４月より始動いたします。他の指定強化部とともに、本学の新たな挑戦として大いに期待しております。

このように、本学は学修・文化・スポーツの各分野において着実に歩みを進めております。後援会といたしましても、学生の成長を力強く後押しし、より良い教育環境の充実に努めてまいります。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2　学長あいさつ



新潟食料農業大学 学長
中井 裕

本学は、開学以来８年目に入って、教育、研究ともに、順調な歩みを続けています。大学院博士課程に２期生を迎え、学部から大学院までさらに充実しています。2026年３月には学部卒業生155名及び大学院修士課程修了生３名が本学から飛び立ちます。

今年の大きなニュースは、校歌制定です。９月10日に正式承認されました。私の作詞・編曲によるものですが、永らく歌い継いでもらいたいと願っています。ホームページの大学概要の欄から試聴できます。

海外研修は昨年に続いて２回目になりますが、今年は研修先をタイ王国に変えて、キングモンクット工科大学トンブリ校と提携して実施しました。

本学は開学以来「地域まるごとキャンパス」のフレーズのもと、学生たちはキャンパスを飛び出して地域社会に学ぶ姿勢をとってきましたが、ますますその特徴が発揮されています。自主的に発足、組織化されたクラブやサークルは、いまや25以上あり、どれもが活発で目覚ましい活動をしており、多くは地域に密着して活動しています。

地域の関係者と連携して、胎内市の幻の柿「伝内柿」をテーマにした市民向け公開講座の開催、LINKクリスマスMarketをはじめ各種地域イベントへの出店、本学学生サークル主催のマルシェの開催、粟島浦中学校と連携した「さつまいも米粉クッキー」の商品化および販売促進イベントの開催、新発田市農業委員会での「若者の就農」をテーマにした交流会への参加、南浜地区「舫いプロジェクト」チームへの参画、胎内市議場コンサートでの軽音サークルの演奏など幅広い活動が行われています。

なお、地域連携で開発された村上茶ハーブティー、清酒のししのくらの森、MURAMATSU-Sakuraは村上市、胎内市、五泉市のふるさと納税返礼品にリストアップされていますので、遠隔地の保護者の皆様も入手可能です。

また、スポーツ活動も、引き続き盛んです。よき指導者の下、自主性を活かした活動を行っています。自転車競技部は登録選手数では全国の大学で３番目の規模に成長し、ロードレースシリーズ・クラス１での個人優勝をはじめ、インカレや全日本学生選手権で多数の選手が活躍しました。男子ラグビー部は２部に昇格して健闘しましたが、残念ながら入れ替え戦で３部に降格しました。柔道、陸上競技も素晴らしい成績を残しています。

地方公共団体、民間企業との連携も盛んで、今年度は８月に株式会社ブルボン、９月に株式会社冨山、３月に新潟市北区と連携協定を締結しています。また、本学の新潟食料健康研究機構や学部・大学院の研究成果を活かしたアグリフォーラム（公開）も引き続き好評です。また海外との提携では、ベトナム国家農業大学と果樹の穂木に関する研究支援の連携が開始されました。さらに、フィリピン・ネグロス島におけるバランゴンバナナの栽培時に発生する感染症の予防に関する研究の実施に向けて、セントラル・フィリピン州立大学との協議を進めています。

マーケットイン、フードチェーン、実学の重視と自由、多様、創造を目指す「食の総合大学」として経済界からの評価も上々で、３月の卒業生たちは３月４日現在98.6％の就職率です。なかでも公務員志望者が増えており、2025年度の公務員試験合格者は、農林水産省１名、県庁等は新潟県３名、北海道、青森県、鶴岡市、八戸市、各１名、新潟県警２名などです。

時は移り時代は変わっていきます。今後も、「変えなければならないこと」と「変えてはならないこと」を峻別して、日本と世界に貢献する人材を育てていきたいと考えます。

皆様方には、これまで以上のご支援をお願い申し上げます。

3　新潟食料農業大学ニュース〈2025年度　下期〉

NAFUフットサル部創部・監督決定 !!



新潟食料農業大学では、令和８年４月より、新たな指定強化部としてフットサル部を創部することとなりました。今後は、全日本大学フットサル大会での上位進出やFリーガーの輩出を目指すとともに、フットサルと農業・食料産業を結びつけた取組を通じて、競技の普及と農・食分野の活性化に取り組んでまいります。

また、このたびフットサル部の監督として、山田秀哉氏の就任が決定いたしました。山田氏は、サッカーおよびフットサルの選手としての経験に加え、各地で指導者として実績を重ねてこられました。

山田監督は、「フットサルを通じて人の心を動かし、希望を届ける」をテーマに掲げ、競技力の向上だけでなく、学生一人ひとりの人間性や主体性を育てるチームづくりを目指してまいります。

新たにスタートする本学フットサル部へのご声援をよろしくお願いいたします。

第８回大学祭「橙和祭」開催



10月19日（日）、胎内キャンパスにて「収穫と笑顔の祭典」をテーマに第８回大学祭「橙和祭」が開催されました。本学の特色を活かして「食」と「農」の魅力を感じられるような企画を多数用意し、多くの方にお越しいただき、新潟「食」料「農」業大学を体感し笑顔になっていただきました。

軽音サークルのライブでは、卒業生も駆けつけ、計７組のバンドが演奏し盛り上がりました。

ミニ体験では「お茶からの遺伝子抽出体験」「ミニスワッグ手作り体験」が開催され在学生が先生、講師役として活躍しました。

屋外では、各クラブ・サークルや地域の方々の出店があり、ラーメン、タピオカ、たこ焼きなどこだわりの商品が並びました。

そして、ステージイベントでは板額太鼓保存会の皆さんによる和太鼓の演奏や、胎内市坂井地区の皆さんによる神楽舞、フラショーなどが開催され、大変盛り上がりました。

大成功の橙和祭となりました！

国際理解セミナー「インドネシアの食と健康」

新潟県国際交流協会より委託を受け、国際理解セミナー「アジアから世界を知る！」を「インドネシアの食と健康」というテーマで、11月１日（土）に開催しました。今回の開催は本学としては７回目となります。

中井裕学長による講話では、本学と連携している大学や訪問したインドネシアの大学の紹介やインドネシアの小麦需給動向や貿易の現状などについて話していただきました。その後、本学に在籍するインドネシア出身留学生を代表し、３名の留学生から、日本へ来たきっかけや卒業後の進路、そして本題であるインドネシア食文化の理想と現実などについて発表をしてくれました。





2025年度第２回「留学生＆日本人学生交流会」を開催！



2025年12月10日（水）、今年度第２回となる「留学生＆日本人学生交流会」を開催しました。本学では、中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、スリランカ、バングラデシュ、モンゴル、香港、アメリカ、マレーシア、シンガポール、イランなど、さまざまな国・地域から多くの留学生が日本人学生とともに学んでいます。

本交流会は、日本人学生と留学生が交流を深めることを目的として、毎年２回実施しています。今回はたこ焼き作りに挑戦しました。自分たちで作ったたこ焼きを味わいながら、和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました。

さらに食後には、日本の伝統的な遊びである「福笑い」を体験し、会場は笑顔と歓声に包まれました。





初開催！冬の食イベント「芋煮会」



12月16日（火）、新潟キャンパスにて、冬の食イベント「芋煮会」を開催しました。

当日は、企画・準備を担当してくれた学生たちが朝から集合し、しょうゆ風味の芋煮と味噌風味の芋煮、さらにNAFU米を使ったアサリの炊き込みご飯と鶏ごぼうの炊き込みご飯の計４種類を心を込めて準備しました。寒い季節にぴったりの温かいメニューがそろい、会場は開催前から期待に包まれていました。

お昼休みには約100名近くの学生や教職員が参加し、配布の時間帯には行列ができるほどの大盛況となりました。中には２杯、３杯とおかわりをして、しょうゆ風味と味噌風味の芋煮を食べ比べる学生の姿も見られました。

学生同士はもちろん、先生と談笑しながら食事を楽しむ様子もあり、キャンパス全体が和やかな雰囲気に包まれていました。温かい料理を囲みながら自然と会話が弾み、心も体もほっこりと温まるひとときとなりました。

準備から当日の運営まで協力してくれた学生の皆さん、本当にありがとうございました。

また来年も、みんなで楽しめる食イベントを開催できるといいですね。